

2024年度活動報告書

2024年04月01日～2025年3月31日

【当会活動地の状況】

テロ紛争と、政治の混乱、経済的非効率の悪循環。世界的な援助不足の中で、サイクロン・Chidoが直撃。カーボデルガド州の人道状況はさらに悪化。

2017年にモザンビーク国内で初めて発生したカーボデルガド州でのイスラム過激派のテロ。日本も参入するアフリカ有数の巨大天然ガス開発を一要因に攻撃が始まり、2019年から攻撃が激化し、2021年7月以降、ルワンダと南部アフリカ開発共同体（SADC）が介入。攻撃数は減ったものの、小規模な攻撃が分散拡大。SADCは2024年7月に完全撤退。テロ紛争は5年10年スケールで長引く予想がされている。これまで6,500名が死亡、100万人が国内避難民となり、115万人が高レベルの食糧危機と直面している。援助のほとんどがガス開発地域の保護・保全に用いられており、現地住民に対する人道状況が悪化している。

カーボデルガド州にはガス田だけでなく、ルビー、金、グラファイトなどの鉱物資産など、多くの天然資源があり国の資金源にもなっているため、政府は何としても資源開発を進行させたい。一方、天然ガス開発で日本と手を組むフランスのTotal社は攻撃の影響でガス開発事業を停止中。再開を2029年度に延期した。

2024年12月15日にはサイクロン・Chidoがカーボデルガド州の州都ペンバを直撃。120人が死亡、868人が負傷し、45万人（9万世帯）が被災。約7万軒の家屋が破壊され、3万軒が損傷した。（国立自然災害研究所（INGD）2024年12月24日）。スラム地区には一切支援が入って来ておらず、現地で唯一の草の根NGOである当会で地道な再建を実施していく。

また2025年1月15日に行われた大統領就任式で、FRELIMOのダニエル・チャポが新大統領に就任。民衆の支持のもと大統領選に挑んだベナンシオ・モンドラーネは、不正選挙の抗議活動を継続しており、「民衆に選ばれた大統領」として政策を発表すると宣言。

人道状況は悪化の一途である当会活動地であるが、限られた資金を「命を守る」活動に最大限注ぎ、引き続き、確実に実効力のある、真っ当な活動をモザンビークスタッフとともに、雑草魂で進めていく

【2024年度の活動方針】

「命を守る」基本中の基本の活動に注力しつつ、「小さな商いプロジェクト」を見据える。

危機的な食糧難、コレラの流行、行き場のない避難民の命を守る活動を最優先事項として実施し、かけがえない命を確実に守る。同時に、支援の光りの当たらない当会エリアの経済と支援の循環を創造するための「小さな商いプロジェクト」の始動を方針にしたが、資金不足により「小さな商いプロジェクト」に着手できず。

2024年度の収入は、2023年度と比べ、5割減しており、助成金の縮小や日本経済低迷により、この減少傾向は続く予想。

※2024年度の活動に関して、毎月日本・モザンビーク事務局にてオンライン会議及び役員会を実施した。

★2024年に重視する行動・3つの柱★

- 1：食べられる：子どもたちもコミュニティの人もスタッフも皆が食べていける支援。
- 2：知られる：認知度の低い地から、現状と声を届けていく広報。
- 3：思いやる：困っている人を見逃さない、見捨てないコミュニティ文化の強化。

<注力項目>

- 配食・公衆衛生活動…子どもたちを飢餓、栄養失調、疾病から守る。
- 国際相互理解推進活動…寺子屋キッズ2名が来日。アートワークショップに参加。

【2024年度の活動計画骨子】

<組織基盤整備> 長期的な活動の持続可能な体制づくり。

- ・ モザンビーク人材育成

<教育活動> 350名のスラムとテロ紛争避難民の子どもが通う寺子屋の運営（2箇所）。

- ・ **【重要】** 朝と晩の配食活動
- ・ 寺子屋での子ども教育の継続。
- ・ ペンバ寺子屋の全面改修
- ・ 寺子屋ガールズ巾着プロジェクト（3年目）

<公衆衛生活動> 基本的な公衆衛生知識の供与と疾病死亡率の低減。。

- ・ **【重要】** ペンバ寺子屋こども公衆衛生・感染症対策教育
- ・ ペンバ寺子屋汚物槽の清掃

<環境保全活動> コミュニティで取り組む環境美化と貧困と環境保全問題の両立。

- ・ 第8回ペンバ環境美化活動
- ・ 環境保全ワークショップ

<テロ紛争・サイクロン被災者支援活動> 被災者の命と暮らしを守る活動。

- ・ エспанサオン共同水場の整備
- ・ ナティティ平和の家の整備
- ・ **【NEW】** サイクロンで破壊した家屋の修理

<国際相互理解推進活動> 平和・相互扶助・国際交流をテーマとした講義公演活動。

- ・ 日本国内での講義公演活動
- ・ **【NEW】** 6カ国の子どもたちとのワークショップ『THE ONE』

<小さな商いプロジェクト> コミュニティの経済と社会支援が回る事業の創出。

- ・ 土地探し、資金調達先探し

【2024 年度の主な活動】

- **組織基盤整備** 長期的な活動の持続可能な体制づくり。

《モザンビーク人材育成》

「小さな商いプロジェクト」を見据えて、寺子屋 OGOB で進学を希望する青年の進学をサポート。5 年先を見据えた人材育成（資格取得）に着手した。薬剤師を目指す女子 1 名から進学サポートを開始。

夢に近づく、寺子屋キッズ！

理想を持つことが何より大事！地域のスター(憧れの人)を輩出し、「やればできる！」と続く人材を育てます。



政府の奨学金でドイツ留学が決まったミステリオ。



寺子屋オープン時から通っていたエディは警備会社に勤めながら学校に通っています。



欧州の財団の奨学金で、ホルトガルの音楽院へ留学が決まったオズバルド。



プロサッカー選手になったエルデル。

- 【 **教育活動** 】 350 名のスラムとテロ紛争避難民の子どもが通う寺子屋の運営（2 箇所）。

【重要】《朝と晩の配食活動》

ペンバ寺子屋の子どもたちの 15% が 1 日 1 食以下であり（2021 年 4 月調査）、寺子屋での配食活動が無いと 1 日何も食べれないという子どもが 10% 以上いるため、引き続き、朝と晩の食料配布を継続した。



《寺子屋での子ども教育の継続》

避難民の子どもも増加し、すでに寺子屋に通所する子どもが 350 名を超えている。加えて、幼児組の通所が増加しているため、乳幼児死亡率が高い環境にある幼児の健康管理を実施しながら、教育活動を継続。寺子屋 OGOB を教師に起用する「学びの環」も強化した。



《ペンバ寺子屋の全面改修》

建築から10年経ち、建屋が劣化し、害獣害虫の侵入やカビ等不衛生になっているため、網戸張替え、割れた床と壁の修理、屋内水洗トイレの導入！！の設置等の全面改修作業を行い、衛生面で大幅に改善した。



《寺子屋ガールズ巾着プロジェクト（3年目）》

寺子屋の女子及びOGによる巾着づくりアルバイトを去年に引き続き実施。200枚制作し、ルワンダ産のコーヒーを入れて日本で販売した。



【 公衆衛生活動 】 基本的な公衆衛生知識の供与と疾病死亡率の低減。

《ペンバ寺子屋こども公衆衛生・感染症対策教育》

8年目となる公衆衛生活動。寺子屋の子どもの死亡率4年連続ゼロを目指し実施した公衆衛生活動。コレラ、出血性結膜炎、麻疹（はしか）も流行しており、気候変動の影響で雨季が長引く傾向にあるため、劣悪な環境で衛生的に生きるための基本である、石鹸での手洗いや爪切り、歯磨き、洗剤の使用法、正しい感染予防の知識を供与し、寺子屋キッズの死亡率4年連続ゼロを達成した。



《ペンバ寺子屋汚物槽の清掃》

寺子屋建設時（2014年）に整備したトイレの汚物槽がいっぱいになり汚物があふれ、蛆虫が大量発生していたため、バキュームカーを使って清掃を試みたが、汚物が固化しバキューム不能であったため、手作業で汚物を取り出した。10年間の汚物が除去された。次は3年後の2027年に汚物槽の清掃を行う。



【 環境保全活動 】 コミュニティで取り組む環境美化と貧困と環境保全問題の両立。

《第8回ペンバ環境美化活動》

2023年度は資金調達ができず実施できなかったペンバ環境美化活動を実施。行政のゴミ回収が行われておらずゴミの散乱が酷くなっているため、限られた予算の中で、美化委員20名以上のチームを結成し、美化、衛生環境の改善を行った。行政のゴミ回収が行われていないことで路地がゴミだらけで、路地で野焼きを行う状況になっていた。また行政からの指導により、ゴミが集まることを避けるため路地の清掃は許可されなかったため、ビーチ周辺の美化を実施した。



《環境保全ワークショップ》

子どもたちが年で一番楽しみにしている6月1日の国際子どもの日に合わせてペンバビーチに寺子屋キッズ200名を連れていき、海洋環境教育とビーチ美化を実施した。ビーチに来たことがない子も多数おり、この日をとても楽しみにしているため、次年度も実施したい。



【 テロ紛争・サイクロン被災者支援活動 】 被災者の命と暮らしを守る活動。

《エспанサオン共同水場兼避難施設の整備》

すでに避難民が住んでいるため、スタッフ自ら銀行からお金を借りて建屋のブロック積み作業を実施していたエспанサオン共同水場兼避難施設の整備を実施。屋根の取り付け、扉と窓の取り付けを行い、雨風をしのげるようにした。またトイレがなかったため、外トイレも設置した。



《ナティティ平和の家の整備》

7部屋各約5名、35名が居住し、スラムの住民100世帯が利用する深井戸があるナティティ平和の家のトイレを1基から2基に増設した。12月15日サイクロンが直撃してからは、家が破壊され住めない住民がナティティ平和の家に避難している。



なおエспанサオン平和の家に関して、資金不足のため建築ができない状態が続いているが、敷地内の整頓を実施。



NEW 《サイクロンで破壊した家屋の修理》

2024年12月15日にペンバを直撃したサイクロン Chido により当会事務所兼住居（現在はテロ紛争避難民に貸している部屋もある）の屋根も吹き飛び、部屋から空が見える状態。寺子屋キッズの家も約90軒が破壊され、遠い親類の家に疎開している子どもたちも多い。なお全体の被害は、120人が死亡、868人が負傷し、45万人（9万世帯）が被災。約7万軒の家屋が破壊され、3万軒が損傷（2024年12月24日国立自然災害研究所（INGD））。寺子屋は倒木被害がありアンテナが吹き飛び、ベランダ教室の屋根が損傷している。スラム地区は支援が一切入っておらず、しかも雨季。住民はなすすべなく途方に暮れているため、当会で地道にスラムの壊れた家（特に屋根）の修理を行っていく。



当会事務所



寺子屋キッズの家



シババル地区の家



サイクロン緊急支援
当会施設や寺子屋キッズの家など多数が甚大な被害

2024年12月15日午後1時、寺子屋キッズの家を直撃したサイクロンChidoにより、多くの家屋が大ダメージを受け、屋根が吹き飛び、多くの家屋が瓦礫の山に変わり、住民が避難生活を余儀なくされています。スラムの家々の屋根を取り付け直すことで、被害を軽減しようとしています！

寺子屋キッズの家をめぐって
サイクロン・Chido: ペンバのスラムの被害支援
一軒当たりの屋根の修理の費用

2024年12月20日

| 項目 | 戸数 (Units) | 平均面積 (sqm) | 平均高さ (m) | 合計面積 (sqm) | 合計費用 (USD) | 備考 (Remarks) |
|------------------------|------------|------------|----------|------------|----------------|-----------------------|
| トヨタ工場 | 1,580 | 2,820 | 40 | 145,160 | 145,160 | トヨタ工場内1300Mまで耐えタイプある |
| 和村 | 1,000 | 2,420 | 40 | 96,800 | 96,800 | 内村1000-1500Mまで耐えタイプある |
| 製材場A | 200 | 404 | 20 | 16,080 | 16,080 | 売った木材を売ってもらう |
| ボロンダ | 60 | 300 | 300 | 54,000 | 54,000 | 人力で修理する |
| ボナン | 700 | 1,810 | 10 | 12,670 | 12,670 | 人力で修理する |
| アリス | 22,000 | 20,840 | 1 | 21,040 | 21,040 | トヨタ工場敷地内 |
| アリス | 22,000 | 20,840 | 1 | 21,040 | 21,040 | トヨタ工場敷地内 |
| トヨタ工場 | 980 | 1,810 | 8 | 7,290 | 7,290 | 修理済 |
| 和村博司 | 200 | 200 | 10 | 7,290 | 7,290 | 修理済 |
| 和村博司 | 20,000 | 40,300 | 1 | 40,300 | 40,300 | 修理済 |
| 和村博司 | 20,000 | 40,300 | 1 | 40,300 | 40,300 | 修理済 |
| 和村博司 | 20,000 | 40,300 | 1 | 40,300 | 40,300 | 修理済 |
| 1軒当たりの屋根の修理の総費用 | | | | | 543,250 | (円) |

【 国際相互理解推進活動 】 平和・相互扶助・国際交流をテーマとした講義公演活動。

《日本国内での講義公演活動》

- 講義公演回数： 39公演 うちワークショップ（2週間）：1回 うちオンライン：2回
 - エリア： 北海道（4公演）、東京（2公演）、神奈川（2公演）、大阪（12公演）、京都（2公演）、福岡（10公演）、佐賀（1公演）、沖縄（3公演） 8都道府県
 - 参加者数： 3,878名
 - 参加国籍：スペイン、ブラジル、ポルトガル、ベトナム、ネパール、インドネシア、中国、韓国、マリ共和国
- これまで実施してきたエリア以外に、北海道の学校等から要望があり北海道公演もスタート。地域における教育や家庭、貧困問題を学ぶことができた。また門真市の学校は7校を回ったがどこも先生の熱意が素晴らしく、生徒が心を開く環境と人間力の向上のチカラに、寺子屋に通じるものを感じた。



門真みらい小学校



品川プリンス・Club eX



立命館大学国際平和ミュージアム



札幌みなみの杜高等支援学校



九州テクノカレッジ

【NEW】《6カ国の子どもたちとのワークショップ『THE ONE』》

ペンバ寺子屋でもミュージカルワークショップを実施したことがある NPO・Les World 主催のアフリカとアジア6カ国の孤児院の子どもたち12名を日本に招聘しワークショップを実施する『THE ONE』に当会も参画。寺子屋から2名の子ども、寺子屋サブディレクター1名を日本に招聘しワークショップを実施。聴覚障害があるマギー（14歳）を敢えて招聘したが、日本をしゃべり、歌を歌えるまでに能力が開花し、感動の連続であった。



【 小さな商いプロジェクト 】 コミュニティの経済と社会支援が回る事業の創出。

《土地探し、資金調達先探し》

食堂、美容院、運送、パン屋、自動車整備、裁縫屋等。スラムの人たちが日常的に利用できるサービスやモノを提供する小さな事業を創出していくための基盤づくり。土地価格が高騰しており、2024年度は土地が購入できなかったが、2025年に実施したい。引き続き、資金調達先を探していく。

モザンビークのいのちをつなぐ会が可能にする、スラム地区における社会支援と経済の循環。 Theory of Change



小さな商いの概要 立ち上げるのは、社会的ジレンマが起きない仕事 =スラムの人たちが必要とし、スラムの人たちが活用できる仕事。



スラム地区に事務所を構え、長年活動を行っているモザンビークのいのちをつなぐ会だからこそ実現する！
小さな商いプロジェクトで、支援と経済が循環する理想的なコミュニティ開発。



以上

【メディア紹介】

9月から取材を受けていたNHK WORLD「Direct Talk」が2027年12月まで放送されています。

榎本恵 NHK 番組 教育を通じ貧困の連鎖を改善する

Breaking the Poverty Cycle Through Education:
Enomoto Megumi / CEO, Bridge for Lives in Mozambique



<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/2105159/>

11月から1月まで密着取材を受けていたNHK WORLD「Where we call home」。日本語版をNHK BSで放送。

ナジャ NHK 番組 平和を願い歌う

A Melodic Wish for Peace / Nadja



NHK BS 日本語版

以上